
『千沙』（思いっきり仮題です。

鳳圭介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『千沙』（思いつきり仮題です）。

【Nコード】

N4204BA

【作者名】

鳳圭介

【あらすじ】

ニコニコ動画のつづき様の描いた『千沙』シリーズ（言い方が変でごめんなさい）を元とした二次（一次？）創作です。

プロローグ『無くしたもの』（前書き）

この作品は自分、『鳳圭介』の主観によって書かれたものです。実際の絵にどんな感想を抱くかは人それぞれであり、それによって不快に思つかもしれませんので、その危険のある方は、戻ることを勧めます。

プロローグ『無くしたもの』

あの日のあの瞬間、私の人生は180度変わった。嫌なこともあったけど、楽しく過ごしていた学校生活。友達と、いろんなところに行つて、いろんなことをして、人並みに楽しい毎日を過ごしていた。それが、今となっては……。

最初に目を覚ました時、見えたのは真っ白な天井と蛍光灯。視界の端でお母さんは顔を抑えて啜り泣いていた。お父さんは、お母さんを支えるようにしながら、泣きそうになるのを必死にこらえるような顔でこちらを見てくる。

私は手をベッドについて体を起こそうとした。けれども、手をつこうにも、手がベッドに触った感触がなかった。それどころか、腕が動いている感覚もなかった。

おそろおそろ、自分の腕のある場所に目をやる。

「……………え？」

自分の両肩には白い包帯が何重にも巻かれ、腕のあるべき場所には、何もなかった。

はじめは理解できなかった。

「あ……………ああ……………」

何もないということに対して、少しずつ理解し声にならない声が出る。

そして、そこにあるはずの物が無くなっていることを理解した瞬間、痛みが襲う。

「いやあああああああああああああああああああああああ」
本当の痛みなのか、無いことに対して精神的に痛みを感じているのかわからなかった。とにかく、その腕のあるべき場所が、腕のあった場所が痛かった。焼けた鉄を当てられたように。

「おちついて、君のその痛みは偽物だ。鎮痛剤は注射してあるんだ

し、ね？大丈夫だから……」

そんな風に話しかけてくる医者や看護師。周りが何と言おうと、この腕は痛かった。そこにあるはずで、今は無いその腕が、とてもとても痛かった。

私は、ごくごく普通の中学生だった。普通に中学校に通っていて、ごく普通に授業を受けて。

それがあの日の朝、ごく普通ではなくなってしまった。

青信号、近づくトラック、鳴り響くクラクション。

ああ、こんな光景テレビで観たことあるなあ。そんなことを無感情に考えて、私は宙を舞った。高く高く、私の細い体は、歩行者信号機と同じ高さまで跳ね上がる。信号機の青色が、点滅を始めていた。自分の腕が、変な方向に曲がっているのが見える。でも、何も痛くない。信号機の青信号が、赤く変わり、私は地面に落ちる。舞い上がる瞬間とは違い、無感情に、無感想に。

何かが潰れるような音と共に、私の世界は黒に染まる。

プロローグ『無くしたもの』(後書き)

書き始めが、どうしても黒くなってしまいます。どうしようもないといえますか……。でも、きっと笑顔にしてみせますので、お待ちください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4204ba/>

『千沙』（思いっきり仮題です）

2012年1月11日02時56分発行